

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成22年10月11日（月）～10月17日（日）〔平成22年第41週〕の感染症発生状況

第41週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘及び流行性耳下腺炎でした。

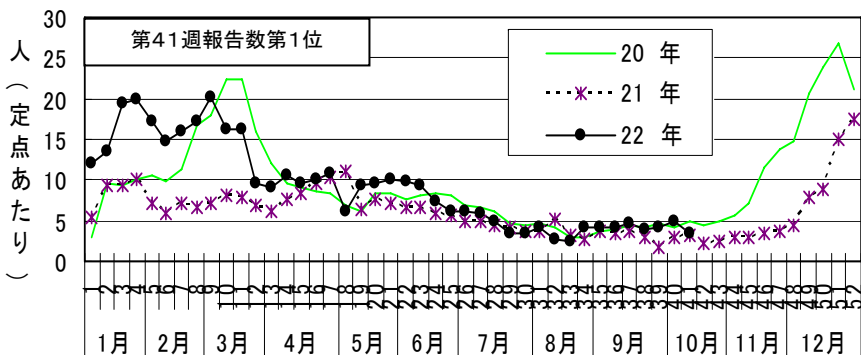
感染性胃腸炎は定点あたり3.52人と前週（5.00人）より患者報告数は減少しました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり1.24人と前週（1.27人）より患者報告数は減少しました。

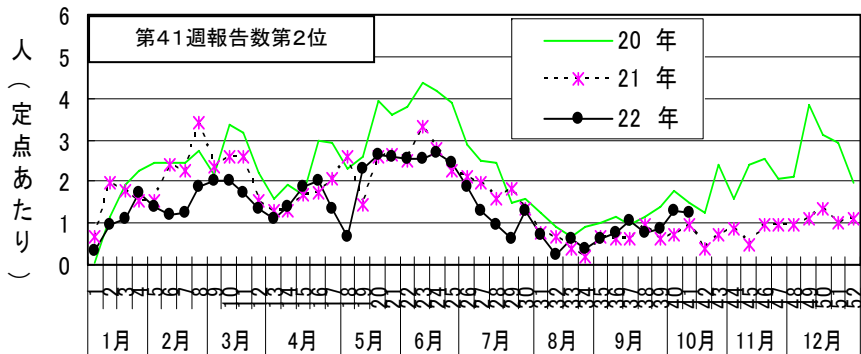
インフルエンザの報告が7件（川崎2件、宮前区5件）あり、第40週の8件に引き続きインフルエンザの報告が続いているため、今後の動向に注意が必要です。

デング熱の届出が1件（推定感染地域：タイ・ラオス、推定感染経路：動物・蚊・昆虫等からの感染）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)にご注意！！

川崎市において、第41週で流行性耳下腺炎の定点あたりの報告数は0.94人でした。これは平成11年以降の同時期と比較すると、平成17年に次いで2番目に多い報告数となっています。特に多摩区で報告数が多く、定点あたり2.60人となっています（注意報基準値は定点あたり3人）。

また、国立感染症研究所によると、今年の発生状況は過去3年間の累積報告数を大きく上回っており、今後秋から冬にかけて患者の増加を予測していることから、今後の流行状況には注意が必要です。

症状は！？

約2～3週間の潜伏期間後に、発熱・倦怠感・頭痛・耳下腺（耳の下あたり）腫脹がみられます。また、ものを食べるときにあごに痛みを訴えることが多くあります。さらに、3～10%の患者に無菌性髄膜炎の合併がみられます。

成人の発症例では、髄膜炎・精巣炎・熱性痙攣・難聴・肺炎などの合併症によって入院を要する例が比較的多くあります。

どうやって感染するの！？

流行性耳下腺炎はムンプスウイルスが原因で引き起こされ、患者の唾液などの飛沫や接触によって感染します。唾液中に多くウイルスが出るのは、症状がでる2日前から症状が出てから5日後頃までです。

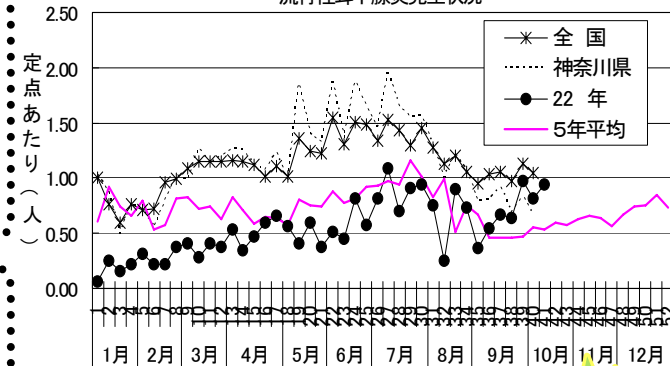
学校保健安全法での取り扱い

流行性耳下腺炎は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。なお、出席停止期間の基準は次の通りです。

耳下腺の腫脹が消失するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。



流行性耳下腺炎発生状況



予防方法は？

流行性耳下腺炎を効果的に予防する方法はワクチン接種（任意接種）です。多少の違いがあるようですが、おおそ90%前後で有効なレベルの抗体を獲得するとされています。

集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが、現在最も有効な感染予防法とされています。

